

IV-17 地方自治体における行政評価システムに関する一考察

香川県庁 ○正会員 大森 洋
徳島大学工学部 正会員 山口 行一
徳島大学工学部 正会員 山中 英生
徳島大学大学院 学生員 奥平 詠太

1.はじめに

住民の行政に対するニーズの変化や財政状況の悪化等を背景に行政評価システムが注目されている。

行政評価システムは米国における試みが先駆けとされているが、表1に示すように2つの種類がある。三重県においてはこのうち政策評価システムとして事務事業評価システムを導入している。ここでは、その概要を分析し、三重県土木部を対象として導入実態の把握を行った。

表1 2種類の行政評価システム

政策評価		執行評価
住民の満足度の向上	目的	サービス行政等の現場の効率改善
首長によるトップダウンにより実施	評価手法	現場からのボトムアップにより実施
アウトカム指標	指標	アウトプット指標
国、県、企画・規制・公共事業分野	有効な機関・分野	市町村、サービス行政分野

アウトカム指標：活動の結果どう変化したかを表した指標

アウトプット指標：実際の活動量を表した指標

2.三重県における事務事業評価システム

三重県では、平成8年に生活者起点の行政運営を基本目標とした「さわやか運動推進大綱」を策定し、平成9年から政策評価を目的とする事務事業評価システムが導入された。

事務事業評価システムでは、政策体系ごとに「事務事業目的評価表」が作成されている。そして、「事務事業目的評価表」は、各年度の予算編成時に個々の事務事業（3381本：H10年度）ごとに作成され、予算編成の参考資料として活用されている。具体的には、「担当課」「事務事業名」「上位政策」「上位施策」「目的」「成果指標(代替指標)」「活動指標」「予算額」「所要時間」などが掲載されている。

三重県の事務事業評価システムの大きな特徴の1つは、事業実施に対するアカウンタビリティを確保するため、数値化された成果指標と活動指標を用いて定量評価を行っているところである。表2に示すように、成果指標には、目的達成度を測る尺度でアウトカム指

標が用いられ、代替指標は、成果指標値の測定が困難な場合に用いられる指標である。また、活動指標には、事務事業の実際の作業量を表す尺度でアウトプット指標を用いている。例えば、道路整備事業を取り上げると、成果指標は、「生活の利便性安全性向上度+地域活性化度」で、その代替指標は、「整備済道路延長/道路延長」のように設定される。活動指標は「整備済道路延長」である。

表2 成果指標（代替指標）と活動指標の概要

	成果指標	（代替指標）	活動指標
内容	目的の達成度を測る尺度 アウトカム指標	（成果指標値の測定が困難な場合に用いる尺度）	事務事業の実際の作業量を表す尺度 アウトプット指標
道路整備事業	生活の利便性安全性向上度+地域活性化度	（整備済道路延長/道路延長）	整備済道路延長

3.三重県土木部における事務事業評価システムの分析

分析の対象として、平成10年度の「事務事業目的評価表」によって公表された三重県土木部（10課）の285事業を選んだ。そして、「事務事業目的評価表」に掲載されている「成果指標(代替指標)」「活動指標」「予算額」「所要時間」に着目し、土木部における①各担当課の予算額の推移・所要時間の推移、②各担当課の「活動指標」「成果指標」の特徴、③成果指標値と予算額の関係について分析を行った。

①各担当課の予算額

予算額の割合は道路建設課が38.4%と最も高いが、事業数では、1つの事業単価が高いため、285事業中15事業となっている。次いで予算額の割合が高いのは河川課の20.6%である。事業数でみると80事業と土木部の中で最も多くなっている。下水道課、道路維持課の予算額の割合は13.8%、12.0%であり、事業数はそれぞれ57、15事業である。

②各担当課の成果指標の特徴

285事業の中で、成果指標に住民の満足度を用いて

いる事業を、事業数と予算額の割合で担当課ごとに示したものが図1である。

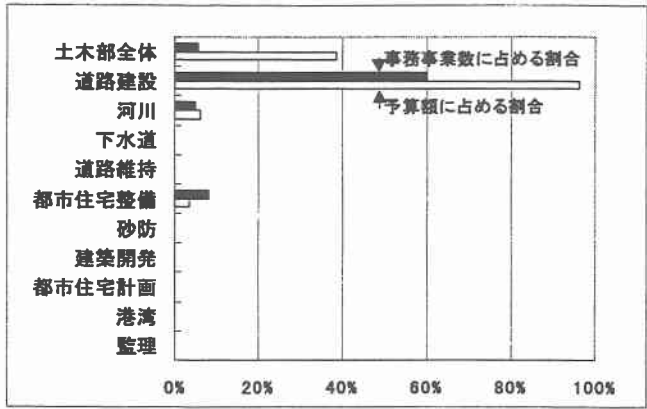


図1 成果指標に満足度を用いている事業

予算額に占める割合でみると、土木部全体では40%弱、道路建設課では96%を占めている。しかし、これらは全て代替指標が用いられており、満足度の測定には特別な調査が必要と考えられる。

③成果指標値と予算額の関係

次に、土木部の285事業には、同じ指標を用いているものが含まれているため、各担当課で同一の指標ごとに事業をまとめる整理を行った。そして、その予算額の合計が各担当課で80%を占める30の指標(92事業)を抽出し、それらの指標値、予算額の変化を分析することとした。まず、抽出した30の成果指標を、ストック型とフロー型の2つのタイプに分類した。ストック型成果指標は、長期目標が設定され、各年度の始めに整備状態と成果指標値が等しいと仮定し、フロー型成果指標は年度別目標に沿った年度内活動量が成果指標値と等しいと仮定したものである。

成果指標値と予算額の関係を明らかにするため、それらの伸びを30の成果指標について(1)式・(2)式で計算した。

$$\frac{E_{t+2} / E_{t+1}}{E_{t+1} / E_t} \approx \frac{I_{t+2}}{I_{t+1}} \quad (\text{ストック型}) \quad (1)$$

$$\frac{E_{t+2}}{E_{t+1}} \approx \frac{I_{t+2}}{I_{t+1}} \quad (\text{フロー型}) \quad (2)$$

ただし、E：成果指標値 I：予算額
t：平成t年度(今回はt=8)

図2、図3は、成果指標値の伸びと予算額の伸びを、平均値と1で9分割し、各ゾーンに分類された事業名、事業数、事業予算額の総和が土木部の総予算額に占める割合を示している。また、楕円で囲まれた事業は、成果指標値と予算額の伸びが、比例あるいは逆比例関係

になっているものを示している。

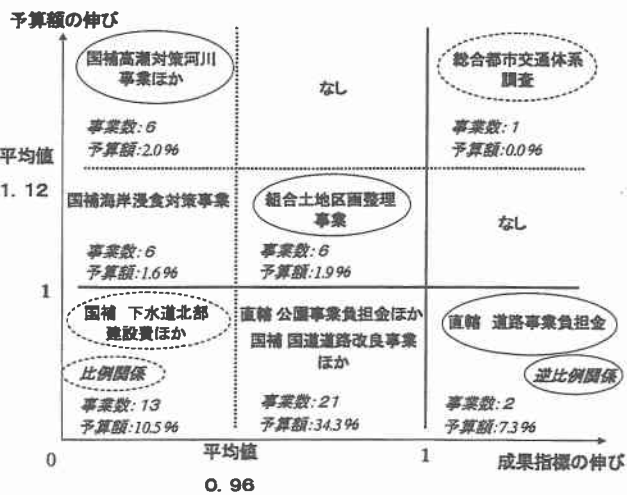


図2 ストック型成果指標と予算額の関係

図2から、成果指標値が減少し予算額が減少した事業は、土木部予算の約45%をしめていることがわかる。

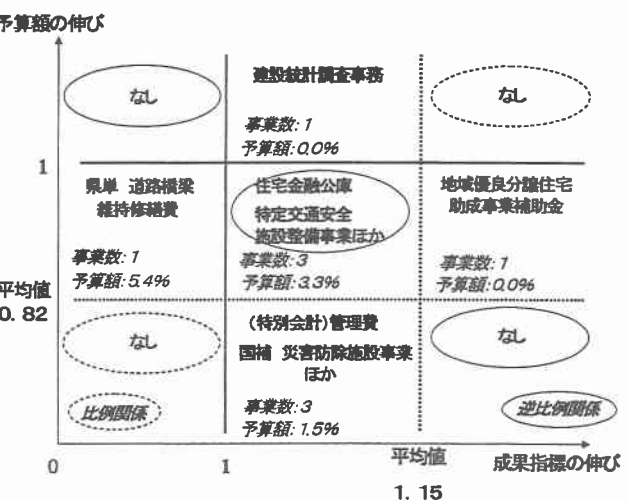


図3 フロー型成果指標と予算額の関係

また、図3より、フロー型成果指標が用いられている事業は土木部においてあまり大きなウェイトを占めておらず、フロー型成果指標値の伸びと予算額の伸びには明確な関係は見いだせなかった。

4. 結論

分析をとおして、住民満足度が成果指標に用いられている分野は偏っていることがわかった。また、成果指標値と予算額には論理的なつながりは見出せなかった。今後は他分野のパフォーマンスや政策体系と予算配分について検討を進める予定である。

5. 謝辞

三菱総合研究所による研究会において京都大学大学院の青山教授、松中助手、岡山大学の谷口助教授から助言を得ており、三重県政策評価推進課から情報を得た。記して謝意を表する。